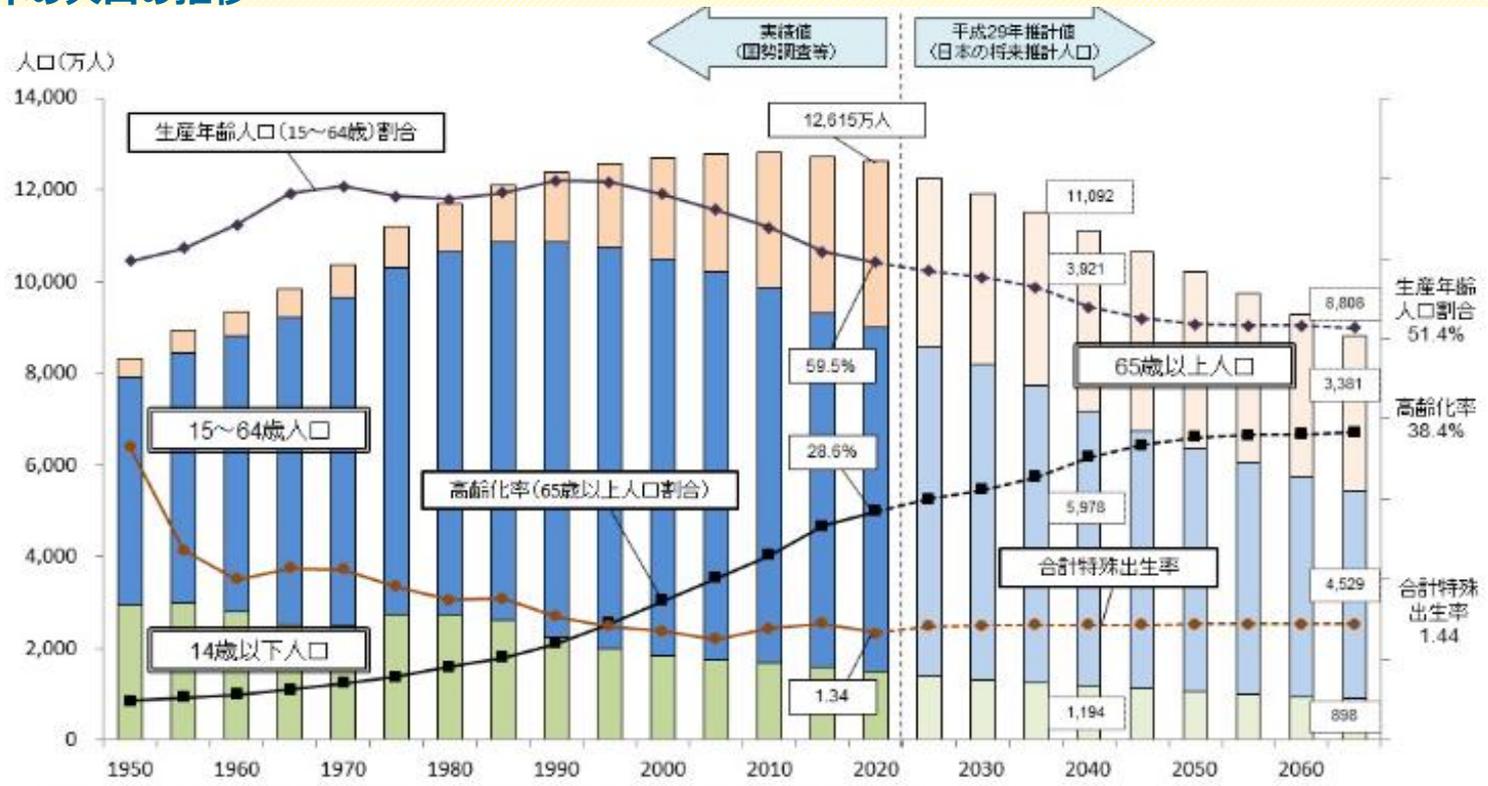


生産年齢人口の推移

■日本は、超高齢少子社会、人口減少社会を迎えており、15～64歳の生産年齢人口は減少傾向にあります。

日本の人口の推移

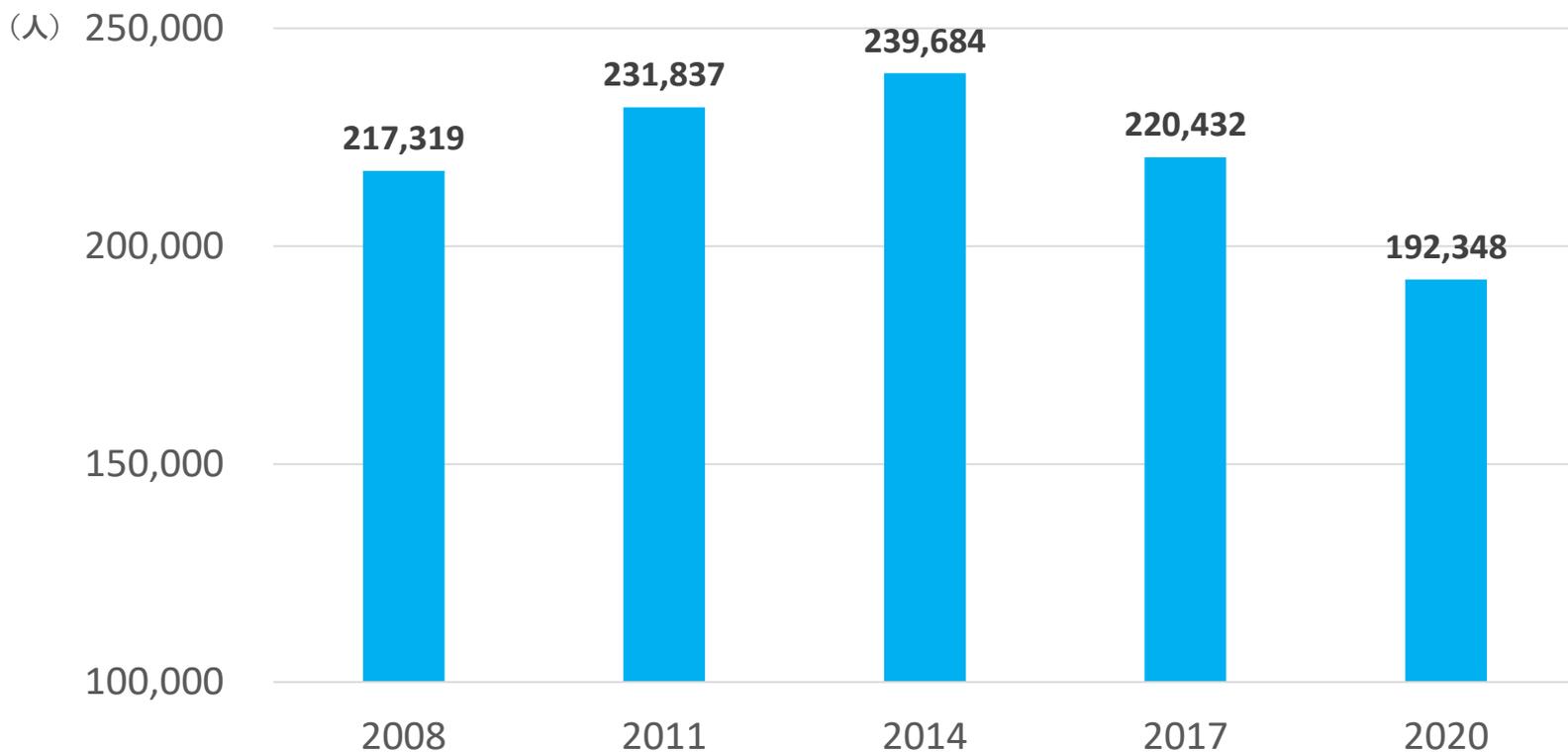


(出所) 2020年までの人口は総務省「人口推計」(各年10月1日現在)等、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態統計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)

看護補助者数の減少

- 超高齢少子社会における日本において、労働力人口※の減少が進む中、看護補助者数も2014年以降減少傾向にあり、2020年には約19万人となっています。

看護補助者数



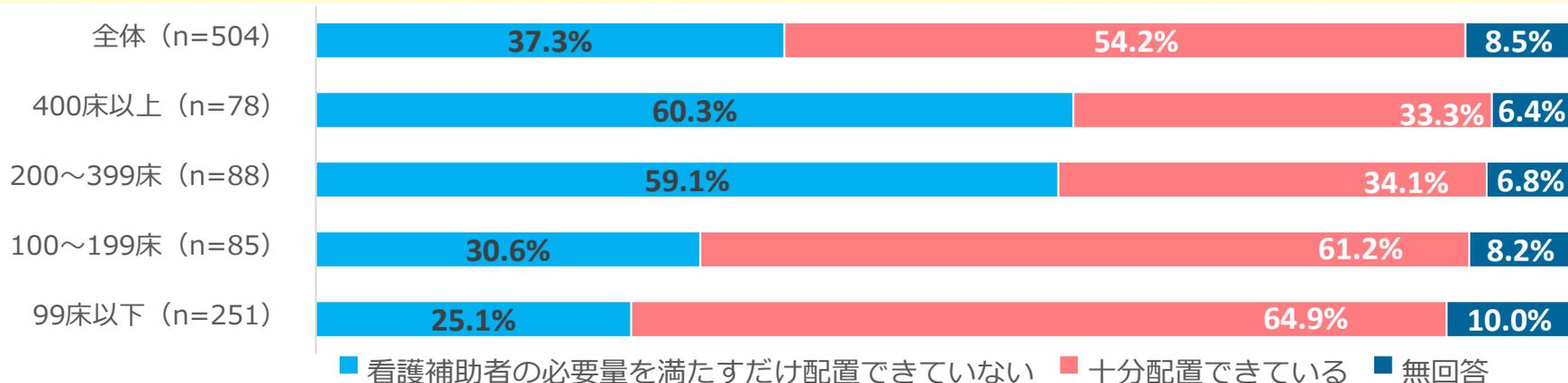
※15歳以上の人口のうち、「就業者」と「完全失業者」を合わせたもの

【出典】厚生労働省「医療施設動態調査」、「医療施設静態調査(2017年～)」

看護補助者の確保困難

- 特に200床以上の病院では、約6割の病院が「看護補助者の必要量を満たすだけ配置できていない」状況にあります。
- その理由としては、「募集しても集まらない」が9割を占めています。

看護補助者の配置状況



看護補助者の必要量を満たすだけ配置できていない理由

(n=188,複数回答)



【出典】平成31年3月27日中医協総会資料「平成30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成30年度調査)の報告案について」より作成

看護補助者の定着困難

- 新規採用の看護補助者のうち、約3割が年度内に離職しています。
- 非正規雇用の方が採用しやすいものの、正規雇用の方が定着率は高くなっています。

看護補助者の採用・退職状況

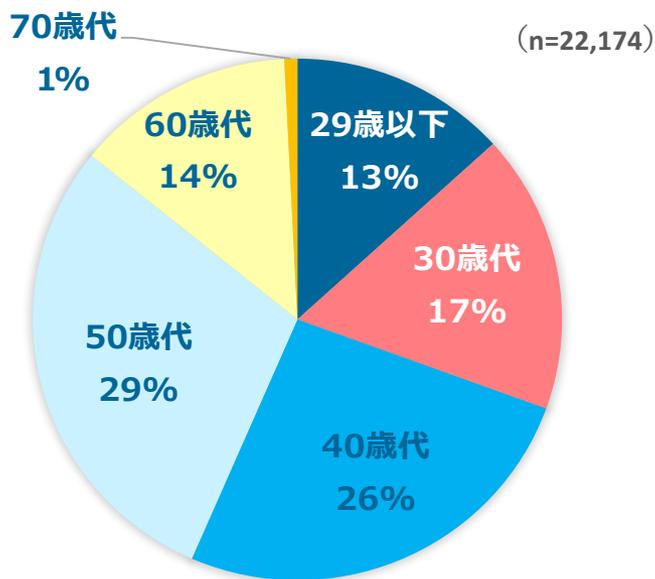
	正規雇用	非正規雇用	正規・非正規合算
(1) 採用予定人数	3.0人	3.1人	6.1人
(2) 採用者数	2.3人	3.3人	5.6人
(3) 採用割合【(2)÷(1)】	76.7%	105.1%	91.1%
(4) 2019年度の総退職者数	2.5人	2.6人	5.1人
(5) 上記(2)のうち2019年度退職者数	0.6人	1.1人	1.7人
(6) 年度内離職率【(5)÷(2)】	25.6%	32.9%	29.9%

【出典】日本看護協会「2020年病院看護実態調査 報告書」

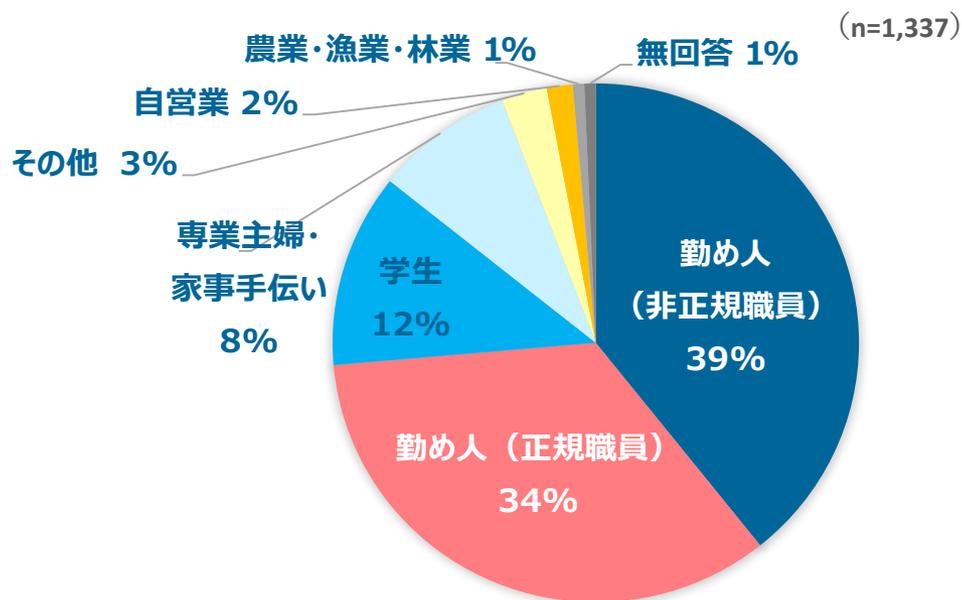
就業者の状況

- 看護補助者の就業者は、50歳代が最も多く、次いで40歳代と幅広い年齢層が就業しています。
- 看護補助者となる前に勤務経験がある者が73%であり、現状は一定の社会人経験を経て、看護補助者として就業する人が多くなっています。

年齢階級別勤務者数（直接雇用、正規非正規合算）



今の病院に勤める前の仕事



様々な層をターゲットとして、確保・定着策に取り組むことが必要